

学生の確保の見通し等を記載した書類

京都ノートルダム女子大学

現代人間学部

目 次

(1) 学生の確保を見通し及び申請者としての取組状況	・・・・・・・・・・ P. 1
① 学生確保の見通し	・・・・・・・・・・ P. 1
ア 定員充足の見込み	
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	
ウ 学生納付金の設定の考え方	
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	・・・・・・・・・・ P. 14
(2) 人材需要の動向等社会の要請	・・・・・・・・・・ P. 15
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	・・・・・・・・・・ P. 15
ア 養成する人材	
イ 教育研究上の目的	
② 人材養成目的等が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	・・・・・・・・・・ P. 19

資料 1

京都ノートルダム女子大学 新学部需要調査【高校生調査】

資料 2

京都ノートルダム女子大学 新学部需要調査【企業調査】

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1. 学部全体（240名）

「現代人間学部」は、現行の生活福祉文化学部（入学定員 100 名）と心理学部（入学定員 160 名）を基礎に再編・統合し、入学定員 240 名に設定して設置するものである。入学定員の設定に当たっては、基礎となる学部の定員充足率、学校基本調査の各種調査、地域的特性及び 18 歳人口の減少を考慮した。

平成 26 年度文部科学省実施の「学校基本調査」の学生数調査によれば、平成 23 年をピークにその後は減少傾向にあるが、学生数は依然増加している。また、「関係学科・専攻分野別学生数の比率の推移」を見ると、過去 5 年間（平成 22 年～）で教育が 0.8%伸び、家政も 0.1%ではあるが増加している。

（別紙 1「学校基本調査 学生数調査」（学生数）（関係学科別学部学生の構成）を以下に示す。）このことから、女子学生が増加傾向にあり、教育、家政への社会的ニーズがあると判断した。

全国から京都の大学で学んでいる学生数は、平成 26 年度約 22,700 人（別紙 2「京都市統計ポータル学校基本情報」）である。京都府出身学生 6,300 人の実に約 3.6 倍の学生が他府県から集まる。本学における出身地域の割合は、過去 3 年間の平均で大阪府 17.7%、滋賀県 10.7%で近畿圏では 67.1%であり、北陸地域、中国地域、四国地域、東海地域（以下「近隣地域」）からの入学者が毎年度約 20%ある。このほか全国各地から一定数がある（別紙 3「京都ノートルダム女子大学入学学生出身地別入学学生調」）。本学は、こうした京都の地理的な特性を今後も活かし、近畿圏を基盤に、近隣地域や全国から学生を確保することが可能である。

また本学は、京都市街地の北部に位置し、京都市営地下鉄、京都市営バスによって各鉄道網と接続しており、京都市内はもちろん、大阪、滋賀、奈良方面からの交通アクセスも便利な立地条件にある（別紙 4「起点となる最寄駅からの所要時間調」）。今回の入学意向調査（資料 1）においても、「交通の便が良い」「自宅から通える」を、進学先として検討する際に重視する項目として選択している回答が多かった。

現代人間学部の開設は、社会のニーズの変化に対応し、また本学の立地条件を活かしつつ、本学の知名度を上げる積極的な広報活動を展開し、カトリック系、キリスト教系教育機関との連携を更に緊密にすることなどで、必要な学生数の確保が可能であると考ええる。

本学は、「現代人間学部」の設置に向けての学生募集について、学内プロジェクトを立ち上げ、専門業者による新学部への入学意向調査を実施した。入学意向調査は、近畿地区を中心に 16 都道府県の 67 校、6,331 名の 2 年生の女子高校生から有効回答（以下「有効調査回答数」）を得た。その結果、345 名（全体の 5.4%）から「入学をしたい」との強い入学の意向が示された。また、「入学したい」と「入学することを検討したい」を合わせると 984 名（全体の 15.5%）であった。この「入学することを検討したい」も進学先を選ぶ際に最も重視する項目に「学びたい学部・学科・コースがある」「校風や雰囲気が良い」などが上位にあった。新学部は、社会の要請に応えた 3 学科、計 8 コースを設置しており、さらに平成 27 年 5 月に大規模な校舎の改修が完成し、教育研究設備が充実した。こうした点を学生募集広報活動の際に丁寧に説明することにより、「入学を検討したい」から「入学したい」に変えることが可能である。これらを考慮すると新学部の十分な学生確保は可能であり、定員充足も可能である。

平成 26 年度文部科学省実施の「学校基本調査」の学生数調査

(表 2 学生数) (表 3 関係学科別学部学生の構成)

表2 学生数(大学)

(単位:人,%)

区 分	計	関係学 科 別 学 生 の 構 成 比			うち女子	社会人の 占める 割合	女子の 占める 割合	国 立	公 立	私 立
		うち学部	うち大学院	うち社会人						
平成16年度	2,809,295	2,505,923	244,024	40,988	1,100,839	16.8	39.2	624,389	122,864	2,062,042
21	2,845,908	2,527,319	263,989	54,642	1,158,390	20.7	40.7	621,800	136,913	2,087,195
22	2,887,414	2,559,191	271,454	55,345	1,185,580	20.4	41.1	625,048	142,523	2,119,843
23	2,893,489	2,569,349	272,566	54,994	1,200,182	20.2	41.5	623,304	144,182	2,126,003
24	2,876,134	2,560,909	263,289	54,195	1,206,134	20.6	41.9	618,134	145,578	2,112,422
25	2,868,872	2,562,068	255,386	55,355	1,216,012	21.7	42.4	614,783	146,160	2,107,929
26	2,855,529	2,552,022	251,013	56,074	1,220,091	22.3	42.7	612,509	148,042	2,094,978

(注)「学生数」には、学部学生・大学院学生のほか、専攻科・別科の学生及び科目等履修生・聴講生・研究生を含む。

(2) 学生数 (表 2)

学生数は、2,855,529 人 (男子1,635,438 人、女子1,220,091 人) で、前年度より13,343 人減少している。また、学生数のうち学部学生は2,552,022 人、大学院学生は251,013 人〔修士課程〔修士課程及び博士前期課程(一貫制博士課程の1・2 年次の課程を含む。)以下同じ。〕159,929 人、博士課程〔博士後期課程(一貫制博士課程の3・4・5 年次の課程を含む。)及び歯医学、薬学及び獣医学関係の4 年一貫制課程を含む。以下同じ。〕73,704 人、専門職学位課程17,380 人〕、専攻科・別科等の学生は52,494 人である。

① 学生数を設置者別にみると、国立612,509 人(学生数の21.4%)、公立148,042 人(同5.2%)、私立2,094,978 人(同73.4%)である。

② 女子学生の占める割合は 42.7%で、前年度より 0.3 ポイント上昇している

表 3 関係学科・専攻分野別学生数の比率の推移 (大学・大学院)

(1) 学部学生

(単位:%)

区 分	関係学 科 別 学 生 の 構 成 比											
	計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	芸術	その他
平成16年度	100.0	16.3	38.4	3.5	17.5	2.8	2.5	1.7	2.3	5.6	2.9	6.6
21	100.0	15.4	35.3	3.2	16.0	3.0	2.5	2.1	2.6	6.3	2.9	10.5
22	100.0	15.2	34.9	3.2	15.7	3.0	2.5	2.4	2.7	6.5	2.8	11.2
23	100.0	15.0	34.2	3.2	15.4	2.9	2.6	2.8	2.7	6.7	2.8	11.7
24	100.0	14.8	33.7	3.2	15.2	3.0	2.6	2.9	2.7	7.0	2.8	12.2
25	100.0	14.7	33.1	3.1	15.2	3.0	2.7	2.9	2.8	7.2	2.7	12.6
26	100.0	14.5	32.7	3.2	15.2	3.0	2.7	3.0	2.8	7.3	2.7	12.9

(3) 関係学科別学部学生の構成 (表 3)

学部学生の関係学科別構成比をみると、「社会科学」が32.7%で最も高く、次いで「工学」(15.2%)、「人文科学」(14.5%)等の順である。その年次推移をみると、「教育」の比率は年々上昇してきているが、「人文科学」、「社会科学」の比率が低下している。

京都市統計ポータル学校基本情報

第9表 出身高校の所在地別入学者数（大学）

(単位:人)

各年度5月1日

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	
総数 平成26年度	335	40	34	86	22	38	53	132	59	86	107	128	
国立	43	3	2	15	4	5	8	24	8	17	33	43	
公立	5	—	2	3	1	2	—	—	—	4	1	1	
私立	287	37	30	68	17	31	45	108	51	65	73	84	
総数 平成25年度	362	30	36	100	31	39	69	134	65	76	101	111	
	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	
総数 平成26年度	360	162	143	260	382	313	45	243	366	494	1,041	436	
国立	167	74	30	27	41	37	4	33	55	64	254	54	
公立	12	3	2	4	8	3	2	4	11	9	27	15	
私立	181	85	111	229	333	273	39	206	300	421	760	367	
総数 平成25年度	362	147	156	288	382	363	62	230	388	519	920	500	
	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	
総数 平成26年度	2,345	6,365	6,151	2,512	1,365	445	182	135	480	593	243	179	
国立	145	569	789	414	268	49	18	8	76	102	22	19	
公立	66	282	153	70	42	9	8	1	8	18	2	5	
私立	2,134	5,514	5,209	2,028	1,055	387	156	126	396	473	219	155	
総数 平成25年度	2,531	6,411	5,957	2,539	1,382	467	200	112	414	625	236	178	
	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
総数 平成26年度	374	259	187	548	79	71	155	116	80	132	62	643	29,066
国立	37	30	17	114	16	18	36	8	19	28	10	77	3,934
公立	5	7	1	12	2	2	1	3	1	6	—	4	827
私立	332	222	169	422	61	51	118	105	60	98	52	562	24,305
総数 平成25年度	357	303	184	512	101	97	149	134	84	129	63	666	29,302

注1) 京都市内に学部等が所在する場合の当該学部等(教養部)に関係する入学者数を計上している。

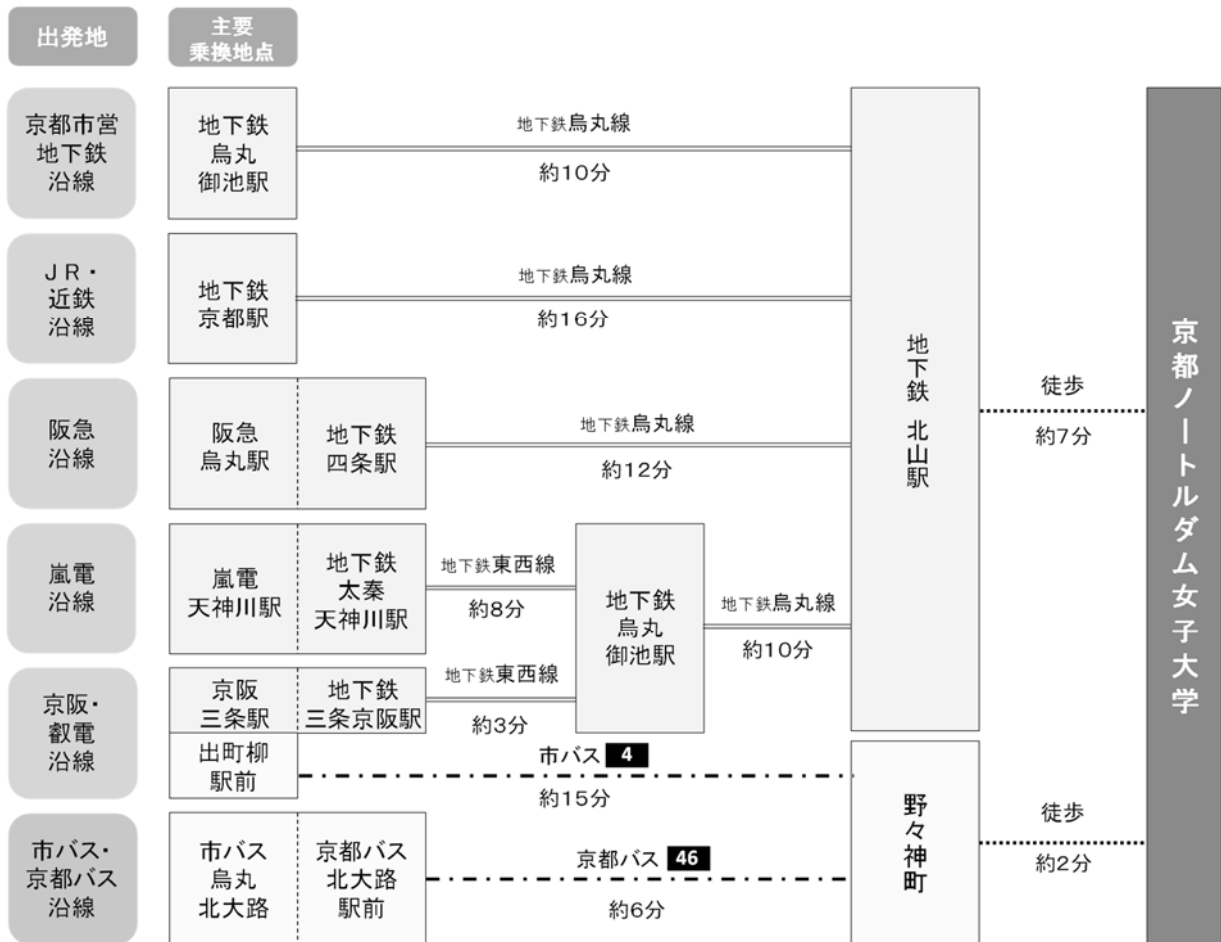
2) 入学者数には、各年度5月1日現在在籍しないものは含まない。

3) 「その他」とは、外国の学校卒業、専修学校高等課程卒業、高等学校卒業程度認定試験に合格した者等である。

京都ノートルダム女子大学出身地別入学者調

地域	都道府県	2013年度			2014年度			2015年度			過去3年	
		入学者数	全入学者に 対する割合	割合計	入学者数	全入学者に 対する割合	割合計	入学者数	全入学者に 対する割合	割合計	都道府県別 割合平均	地域別 割合平均
北海道	北海道	5	1.6	1.6	7	2.2	2.2	4	1.6	1.6	1.8	1.8
東北	青森	0	0.0	3.2	1	0.3	1.3	0	0.0	2.0	0.1	1.6
	岩手	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0.0	
	宮城	3	1.0		1	0.3		3	1.2		0.8	
	秋田	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0.0	
	山形	2	0.6		1	0.3		0	0.0		0.3	
	福島	0	0.0		1	0.3		2	0.8		0.4	
関東	茨城	3	1.0	1.6	2	0.6	1.6	2	0.8	2.4	0.8	1.8
	栃木	1	0.3		2	0.6		0	0.0		0.3	
	群馬	1	0.3		1	0.3		4	1.6		0.7	
	埼玉	2	0.6	1.3	1	0.3	0.9	2	0.8	1.2	0.6	1.1
	千葉	0	0.0		1	0.3		1	0.4		0.2	
	東京	2	0.6		1	0.3		0	0.0		0.3	
	神奈川	0	0.0		0	0.0		0	0.0		0.0	
	甲信	山梨	1		0.3	1.0		0	0.0		0.9	
長野	2	0.6	3	0.9	1		0.4	0.7				
北陸	新潟	3	1.0	3.8	3	0.9	5.3	1	0.4	3.5	0.8	4.2
	富山	2	0.6		4	1.3		0	0.0		0.6	
	石川	3	1.0		7	2.2		4	1.6		1.6	
	福井	4	1.3		3	0.9		4	1.6		1.3	
東海	岐阜	5	1.6	6.1	4	1.3	6.6	4	1.6	8.2	1.5	7.0
	静岡	0	0.0		3	0.9		6	2.4		1.1	
	愛知	9	2.9		6	1.9		3	1.2		2.0	
	三重	5	1.6		8	2.5		8	3.1		2.4	
近畿	滋賀	28	8.9	69.7	39	12.3	68.9	28	11.0	62.7	10.7	67.1
	京都	101	32.2		104	32.7		65	25.5		30.1	
	大阪	63	20.1		50	15.7		44	17.3		17.7	
	兵庫	10	3.2		14	4.4		8	3.1		3.6	
	奈良	11	3.5		6	1.9		8	3.1		2.8	
	和歌山	6	1.9		6	1.9		7	2.7		2.2	
中国	鳥取	3	1.0	4.5	1	0.3	4.4	3	1.2	7.5	0.8	5.4
	島根	0	0.0		4	1.3		3	1.2		0.8	
	岡山	5	1.6		3	0.9		9	3.5		2.0	
	広島	1	0.3		1	0.3		2	0.8		0.5	
	山口	5	1.6		5	1.6		2	0.8		1.3	
四国	徳島	0	0.0	4.1	0	0.0	4.1	1	0.4	4.3	0.1	4.2
	香川	4	1.3		6	1.9		7	2.7		2.0	
	愛媛	6	1.9		2	0.6		3	1.2		1.2	
	高知	3	1.0		5	1.6		0	0.0		0.8	
九州	福岡	4	1.3	3.2	3	0.9	2.5	4	1.6	4.7	1.3	3.5
	長崎	1	0.3		2	0.6		1	0.4		0.4	
	熊本	0	0.0		2	0.6		3	1.2		0.6	
	大分	1	0.3		1	0.3		2	0.8		0.5	
	宮崎	3	1.0		0	0.0		2	0.8		0.6	
	鹿児島	1	0.3		0	0.0		0	0.0		0.1	
沖縄	沖縄	2	0.6	0.6	0	0.0	0.0	1	0.4	0.4	0.3	0.3
	その他	3	1.0		4	1.3		2	0.8		1.0	1
合計		314	100.0		318	100.0		255	100.0			

起点となる最寄駅からの所要時間調



1) 入学定員の設定の考え方及び学生確保の見通し

1. 福祉生活デザイン学科(70名)

福祉生活デザイン学科は、現 生活福祉文化学部生活福祉文化学科（以下「生活福祉文化学科」）の教育課程を基礎とし、ここから保育士課程を除き、学びを明確にしたコース立てを行い教育課程の充実を図っている。

生活福祉文化学科の入学者数は、現代人間学部福祉生活デザイン学科の入学者確保における基礎数として算定する。具体的には、生活福祉文化学科定員 100 名のうち、保育士養成課程の過去 4 年間の初年度在籍学生数の平均は 25 名（以下「初年度在籍者」）であり、今回、保育士養成課程はこども教育学科に移行することから、生活福祉文化学科の定員からこの保育士養成課程の在籍者数を減じた学生数が定員設定の基礎数となる。

保育士養成課程の在籍学生数調査

学生数	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平均
在籍数	60 名	77 名	77 名	78 名	81 名	74 名
初年度在籍数	25 名	22 名	30 名	26 名	25 名	25 名

生活福祉文化学科の過去 5 年間の平均定員充足率は 76% であり、入学者数の平均値は 76 名である（別紙 5 「平成 24 年度～平成 28 年度の入学志願状況等調査」）。ここからこども教育学科へ移行する保育士養成課程の初年度在籍者数 25 名を入学者数から除いた数の平均値は 51 名が基礎数となる。

福祉生活デザイン学科の基礎となる学科の現 生活福祉文化学科では、過去 5 年間に於いて、志願者、受験者、合格者はいずれも入学定員を超えている。学科名称を変えた上で、学びを明確にしたコース立てによる教育課程の充実を図っていること、教育分野である家政学（生活科学）、福祉学・社会福祉学の専任教員を増強・充実させ、教育活動や学生指導を充実させたこと、前述のとおり、「学校基本調査」の学生数調査の家政分野において、最近 5 年間で 0.1% 伸びていること、加えて、この分野への学生の志向が安定していることなどを総合的に勘案して、基礎数の 51 名に 19 名を加え入学定員を 70 名とした。

今回実施した入学意向調査では、現代人間学部への入学意向者 984 名のうち 144 名（14.6%）は、福祉生活デザインへ「入学したい」との強い意向を示している。そのほかにも「入学を検討したい」と回答した学生が 548 名（55.7%）いた。さらに有効調査回答数 6,331 名のうち 819 名（12.9%）が福祉、家政・生活科学の分野を進学先として興味を示した。

平成 28 年度以降、後述の「②学生確保に向けた具体的な取組状況」に記載した方法で、福祉生活デザイン学科の教育課程の魅力を発信することによって、入学定員 70 名は充足できると考える。

2. 心理学科 (100 名)

心理学科は、現 心理学部心理学科（以下「現心理学科」）の教育課程を基礎としつつ、学校心理専攻を除き、学びを明確にしたコース立てを行い教育課程の充実を図っている。したがって現心理学科の入学人数は、現代人間学部心理学科の入学人数確保における基礎数として算定する。

具体的には、現心理学科の定員 160 名のうち、こども教育学科に移行する学校心理専攻の定員 50 名を除いた数は 110 名である。「現代心理専攻」と「臨床心理専攻」の合計の過去 5 年間の定員充足率の平均は 69%で、過去 5 年間の入学人数の平均 76 名が基礎数となる（別紙 5 「平成 24 年度～平成 28 年度の入学志願状況等調査」）。

新たな心理学科では、a) 学習過程の明確化（心理カウンセリングコース、社会・ビジネス心理コースの設定）、b) 公認心理師の国家資格制度化、c) 精神保健福祉士受験資格の課程を設置するなどして教育課程を見直した。

現心理学科の「現代心理専攻」と「臨床心理専攻」を合算した過去 5 年間における志願者、受験者、合格者は、平成 27 年度を除き入学定員を超えており、上述 a) ～c) の教育課程の見直し・充実することによって、新学科の入学人数を増加させる見込がある。また、専任教員も充実（13 名）しており、教員一人あたりの学生数を 1 年次生あたり 8 名以内とし、きめ細かく教育・指導や学生対応を行うことができる。前述したとおり高校生が進学先を選ぶ際に最も重視するとしている項目に「学びたい学部・学科・コースがある」と回答していることから、平成 28 年度以降の学生確保に向けた広報活動において積極的に PR を行う。これらの要因を勘案して、基礎数 76 名に 24 名を加えて入学定員 100 名とした。

今回実施した入学意向調査では、現代人間学部への入学意向者 984 名のうち 162 名（16.4%）が、心理学科へ「入学したい」との強い意向を示している。また、「入学を検討したい」と回答した学生が 545 名（55.4%）いる。さらに公認心理師を取得できることを魅力的だと感じている学生は有効調査回答数 6,331 名のうち 2,988 名（47.4%）であり、社会やビジネスで活かせる心理学を学べることを魅力的だと感じている学生が、有効調査回答数 6,331 名のうち、3,201 名（50.6%）であった。

平成 28 年度以降、後述する「②学生確保に向けた具体的な取組状況」において、心理学科の新たな教育課程の魅力を募集活動において発信することによって、入学定員 100 名は充足できると判断する。

3. こども教育学科(70 名)

こども教育学科の母体学部学科は、生活福祉文化学部生活福祉文化学科の保育士養成課程と心理学部心理学科の学校心理専攻（定員 50 名）である。

入学定員設定において、生活福祉文化学科保育士養成課程の新規在籍者数 25 名と、過去 5 年間の学校心理専攻の平均入学人数 37 名の計 62 名を基礎数とする。

こども教育学科設置の基礎母体である心理学部心理学科学校心理専攻では、過去 5 年間において、志願者、受験者、合格者はいずれも入学定員を超えている（別紙 5 「平成 24 年度～平成 28 年度の入学志願状況等調査」）。現行でも心理学部心理学科学校心理専攻の学生で幼稚園教諭 1 種免許状を取得しようとする者のうち、保育士資格の取得のため生活福祉文化学科の単位を取る学生が毎年 6 名以上いる。また、保育士養成課程の学生で、本学と協定する近大姫路大学の教育学部通信教育課程で幼稚園教諭 1 種免許状の取得をめざす学生が過去 4 年で毎年 13 名～27 名いた。こども教育学科では、幼稚園教諭 1 種免許状と保育士資格の同時取得が可能になるため、62 名の基礎数を上回る学生の応募を見込む。

通信教育課程で幼稚園教諭1種免許状の取得しようとする学生数調査

年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
学生数	20 名	13 名	20 名	27 名

平成 26 年度の「学校基本調査」の学生数調査（別紙 1）において、過去 5 年間の女子学生数の教育分野が 0.8%伸びていることから分かるように、この分野では安定した需要がある。

平成 28 年度以降、学生確保に向けた具体的な募集活動・取組において、こども教育学科の教育課程の魅力（幼稚園教諭免許と保育士資格の同時取得、特別支援学校教諭免許課程の設置、充実した教育カリキュラム）を積極的に発信する。

なお、特別支援学校教諭免許課程は、京都地域における女子大学で唯一の設置となるため、中長期的に安定した学生確保が可能になると考える。

また、専任教員数(15 名)、教員一人あたりの学生数、建物施設の規模・教育設備などを考慮して、入学定員を 70 名とした。

今回実施した入学意向調査の結果、現代人間学部への入学意向者 984 名のうち 189 名（19.2%）が、こども教育学科へ「入学したい」と強い意向を示している。また、「入学を検討している」と回答した生徒は 534 名（54.3%）である。さらに、有効調査回答数 6,331 名のうち、複数資格取得の 3 コースを設定することに対して、3,102 名（48.9%）が魅力的であると回答し、3,167 名（50%）が京都の女子大学で唯一「特別支援学校教諭一種免許状」が取得できることを魅力的だと回答している。

これらの調査結果の分析を踏まえ、今後、学生募集に向けて積極的な取組を行うことによって、入学定員 70 名は充足できると考える。

平成 24 年度～平成 28 年度の入学志願状況等調査

学科	項目	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度	平均
生活福祉文化 学部 生活福祉文化 学科	入学定員	100	100	100	100	100	-
	志願者数	129	127	144	147	176	144
	受験者数	119	123	142	145	174	140
	合格者数	112	104	124	116	130	117
	入学者数	80	60	74	78	90	76
	超過率	0.80	0.60	0.74	0.78	0.90	0.76
心理学部 心理学科 (現代心理・ 臨床心理専攻 のみの合計)	入学定員	110	110	110	110	110	-
	志願者数	124	121	139	156	215	151
	受験者数	120	119	130	153	211	146
	合格者数	114	108	117	132	150	124
	入学者数	72	62	69	93	88	76
	超過率	0.65	0.56	0.62	0.84	0.80	0.69
現代心理専攻	入学定員	30	30	30	30	30	-
	志願者数	35	32	43	46	55	42
	受験者数	34	32	39	45	54	40
	合格者数	31	30	32	38	27	31
	入学者数	15	16	18	22	14	17
	超過率	0.50	0.53	0.60	0.73	0.46	0.56
学校心理専攻	入学定員	50	50	50	50	50	-
	志願者数	59	72	80	100	100	82
	受験者数	58	68	79	97	98	80
	合格者数	55	57	61	81	81	67
	入学者数	35	34	37	45	35	37
	超過率	0.70	0.68	0.74	0.90	0.70	0.74
臨床心理専攻	入学定員	80	80	80	80	80	-
	志願者数	89	89	96	110	160	108
	受験者数	86	87	91	108	157	105
	合格者数	83	78	85	94	123	92
	入学者数	57	46	51	71	74	59
	超過率	0.71	0.57	0.63	0.88	0.92	0.74

※文中は「超過率」を「充足率」と表記

2) 既設学部 of 状況

既設学部のうち、人間文化学部英語英文学科・人間文化学科、心理学部心理学科の現代心理専攻、臨床心理専攻は、定員超過率 0.7 未満となっている。

このうち、心理学部の現代心理専攻及び臨床心理専攻は、生活福祉文化学部と心理学部を再編統合して設置する現代人間学部に移行する。

人間文化学部（英語英文学科，人間文化学科）において定員超過率 1.0 を割ったのが，人間文化学科は平成 21 年度，英語英文学科は平成 22 年度である。その後も入学者確保に努めてきたが，依然として減少傾向が続いている。

この問題に取り組むため，人間文化学部の将来構想を現在検討中であるが，平成 29 年度以降の入学定員については，平成 25 年度から平成 28 年度までの 4 年間の平均入学者数を考慮し，英語英文学科 80 人，人間文化学科 50 人の合計 130 名（40 名減）に変更する。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

入学意向調査（高校生対象）（資料 1）

調査目的

京都ノートルダム女子大学 新学部「現代人間学部」の設置構想に関し，高校 2 年生に「新設学部への興味度」「新設学部への進学検討意向」を聴取し，下記について把握する。

①新学部設立を前提とした学生確保の見通し

②新学部における学生募集の詳細計画策定のため，学部・学科コンセプトの魅力度・差別性等を分析

調査対象

近畿地方（2 府 4 県）を中心とした 16 都道府県にある高等学校

調査方法

過去 3 年間で受験の実績があった京都，大阪，滋賀地区を中心に対象高校を選定して調査協力を依頼。承諾を得た対象校へ調査票を送付，ホームルームなど教室で配布・回収。

有効回収

16 都道府県・67 校

分析対象は，全 7,051 名のうち，女子 6,331 名

調査期間

2015 年 11 月 30 日（月）～2016 年 2 月 9 日（火）

※開始日は調査票発送開始日，終了日は回収締切日

集計・分析 株式会社アンド・ディ

調査は過去 3 年間で受験の実績のある私立の高校を中心に 67 校を対象に実施。

調査結果 回答者 6,331 人のうち進学希望者は 91%であり，4 年制大学への進学希望者は 71%（複数回答可）であった。進学先で希望する分野は，①「教育・保育」が 24%，②「外国語」が 17%，③「人間・心理」が 14%であり，「福祉」は 8%，「家政・生活科学」が 6%であった。

この調査の結果、大学進学希望者のうち、本学の現代人間学部へ興味があると回答した学生は21%あり、高校所在エリア別で見ると大阪府24%、京都府21%、滋賀県18%であった。

また現代人間学部に入学者意向があるとする回答は984名（「入学したい（285名）」と「入学することを検討したい（699名）」の合計）あり、入学定員の約4倍であった。「入学したい」に「入学することを検討したい」を加えた入学意向者を高校所在エリア別にみると京都府20%、大阪府、滋賀県はいずれも19%だった。

京都ノートルダム女子大学現代人間学部に入学者意向とする理由には、将来の進路に合わせて複数用意された「コース」は、専門領域・将来のイメージがわかりやすい、専門資格プラス関連分野の教養を身に付けられる、などの意見がみられた。また専門分野に興味はあっても入学する意向がないと回答した理由には「県外で遠い」「自宅から通えない」などの意見がみられた。

学科ごとの進学意向については、以下のとおりであった。

1. 福祉生活デザイン学科

入学意向者数692人（分析対象全体の10.9%）、このうち、「入学したい」とする者は、144人（分析対象全体の2.3%）、大学進学希望者の中では「入学したい」とする者は119人（大学進学希望者の2.7%）であった。福祉生活デザイン学科の魅力として「将来目指す進路に合わせて3つのコースが用意されること」を選んだ者が3,289人（分析対象全体の52%）であった。

2. 心理学科

入学意向者数707人（分析対象全体の5.4%）のうち、「入学したい」とする者が119人（分析対象全体の2.7%）、大学進学希望者の中では「入学したい」とする者138人（大学進学希望者の3.1%）であった。心理学科の魅力として「社会やビジネスで活かせる心理学を学べること」を選んだ者が3,201人（分析対象全体の51%）であった。

3. こども教育学科

入学意向者数723人（分析対象全体の11.4%）、このうち、「入学したい」とする者は189人（分析対象全体の3.0%）、大学進学希望者の中では「入学したい」とする者は160人（大学進学希望者の3.6%）であった。こども教育学科の魅力として「京都の女子大学で唯一、「特別支援学校教諭一種免許状」が取得できること」を選んだ者が3,167人（分析対象者全体の50%）であった。

定員充足の見込みを分析した結果

調査の結果、現代人間文化学部に入学者意向を持つ者は345人（分析対象全体の5.4%）であった。（新学部へ「入学したい」は285人（分析対象全体の4.5%）、いずれかの学科に行きたい（新学部への「入学を検討したい」と回答した中で3学科のいずれかに「入学したい」と回答）と回答した人が60人（分析対象全体の0.9%）である。

さらに、本調査は私立高校を中心に実施した（全体の86%）が、本学では以下の設置者区分別志願者数が示すように府立、県立、市立からも一定の志願者数がある。また本調査を実施していない地域等の高校（別紙3）からも志願者は一定数ある。このことから今後現代人間学部及び各学科の設置の趣旨、特色、魅力等を、後述する学生確保に向けた取組等により広く広報することによって、入学意向を示している数

以上の学生を確保し、定員を充足できると考えている。

設置者区分別志願者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計
設置者区分	志願者数	志願者数	志願者数	志願者数計
国立	0	2	1	3
都道府県立	180	229	156	565
市立	14	18	9	41
私立	210	201	198	609
総計	404	450	364	1218

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学園の財源は、その大部分を学生の納付金と私立大学等経営補助金とに依存するが、消費税増税をはじめ現下の厳しい経済状況や競争的環境の下にあって、大学経営は一段と厳しさを増している。

新設学部の学生納付金（学費等納入金）の総額（年額）は、初年次（第1年次）が1,410,000円、第2年次と第3年次は1,130,000円、第4年次は1,163,000円（本学の既設学部と同額）で、4年間総額で4,833,000円とする。

内訳は、入学金 280,000円、授業料 750,000円（年額、半期 375,000円）、教育充実費 150,000円（年額、半期 75,000円）、施設設備費 230,000円（年額、半期 115,000円）、卒業費 33,000円（年額、半期 16,500円（第4年次のみ））であり、前期・後期のそれぞれ2分の1の額を納入期日以内に納入すると学則に定めている。

この学生納付金（学費等納入金）は、平成10年度に改定したものであり、その後は据え置き、既に18年を経過しているが、現代人間学部の完成年次までは、諸物価の大きな上昇がない限り改定は行なわないこととする。

なお、4年間の納付総額について、京都・大阪地区の同系学部を有する私立大学(10大学)の平成27年度における納付総額と比べると、本学は低い方から3番目である。（別紙6）

また、学科単位で比べても、こども教育系は低い方から2番目、心理学系、福祉生活系は中間に当たる5番目である。

以上のことから、本学の学生納付金（学費等納入金）は、適正な額であると考えられる。

大学・学部・学科別 学生納付金調

平成28年1月調

大学	学部	学科		入学金	授業料	施設設備費等	年間合計	総額
京都ノートルダム女子大学	現代人間学部	福祉生活デザイン学科/心理学科/こども教育学科	1年次	280,000	900,000	230,000	1,410,000	4,833,000
			2~4年次	-	900,000	230,000 4年次のみ263,000	1,130,000 4年次のみ1,163,000	
梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	1年次	200,000	970,000	250,000	1,420,000	5,470,000
			2~4年次	-	1,100,000	250,000	1,350,000	
	心理こども学部	こども学科	1年次	200,000	900,000	250,000	1,350,000	5,190,000
			2~4年次	-	1,030,000	250,000	1,280,000	
		心理学科	1年次	200,000	920,000	250,000	1,370,000	5,270,000
			2~4年次	-	1,050,000	250,000	1,300,000	
同志社女子大学	現代社会学部	現代こども学科	1年次	260,000	823,000	300,000	1,383,000	5,250,000
			2~4年次	-	-	-	1,289,000	
	生活科学部	人間生活学科	1年次	260,000	823,000	300,000	1,383,000	5,250,000
			2~4年次	-	-	-	1,289,000	
平安女学院大学	子ども教育学部	子ども教育コース	1年次	250,000	980,000	170,000	1,400,000	5,180,000
			2~4年次	-	980,000	280,000	1,260,000	
		乳幼児保育コース	1年次	250,000	980,000	170,000	1,400,000	5,180,000
			2~4年次	-	980,000	280,000	1,260,000	
京都文教大学	臨床心理学部	臨床心理学科	1年次	180,000	960,000	240,000	1,380,000	4,980,000
			2~4年次	-	960,000	240,000	1,200,000	
		教育福祉心理学科	1年次	180,000	960,000	240,000	1,380,000	4,980,000
			2~4年次	-	960,000	240,000	1,200,000	
四天王寺大学	教育学部	教育学科	1年次	300,000	837,000	320,000	1,457,000	4,928,000
			2~4年次	-	837,000	320,000	1,157,000	
大阪成蹊大学	教育学部	教育学科	1年次	250,000	850,000	310,000	1,410,000	4,890,000
			2~4年次	-	850,000	310,000	1,160,000	
京都橋大学	人間発達学部	児童教育学科	1年次	200,000	894,000	270,000	1,364,000	4,856,000
			2~4年次	-	894,000	270,000	1,164,000	
	健康科学部	心理学科	1年次	200,000	834,000	270,000	1,304,000	4,616,000
			2~4年次	-	834,000	270,000	1,104,000	
京都光華女子大学	こども教育学部	こども教育学科	1年次	250,000	948,000	200,000	1,398,000	4,842,000
			2~4年次	-	948,000	200,000	1,148,000	
	健康科学部	心理学科	1年次	250,000	948,000	176,000	1,374,000	4,746,000
			2~4年次	-	948,000	176,000	1,124,000	
佛光大大学	教育学部	教育学科 臨床心理学科	1年次	170,000	950,000	200,000	1,320,000	4,770,000
			2~4年次	-	950,000	200,000	1,150,000	
	社会福祉学部	社会福祉学科	1年次	170,000	900,000	200,000	1,270,000	4,570,000
			2~4年次	-	900,000	200,000	1,100,000	
京都女子大学	発達教育学部	教育学科 (心理学専攻)	1年次	250,000	904,000	162,000	1,316,000	4,454,000
			2~4年次	-	904,000	142,000	1,046,000	
	家政学部	生活福祉学科	1年次	250,000	904,000	162,000	1,316,000	4,454,000
			2~4年次	-	904,000	142,000	1,046,000	

※各大学ホームページから引用

②学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 広報戦略

本学の広報活動に関しての問題点は2点に集約される。(1)高校生、保護者、進路指導担当教員の間での認知度が高いとは言えない。(2)近年は受験生の中に地元志向が強まり、自宅から通える大学を選ぶ傾向あるにもかかわらず、京都、滋賀、大阪からの入学者の割合が京都市内の他大学に比して低い。

こうした問題に対処するため、今回の改組を機に広報活動の強化を図る。広報活動によって伝えるのは、新学部・学科の魅力や、本学が長年培ってきた校風などである。

広報活動は、(1) オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問などの直接接触、(2) メディアを通じた広報活動、の主に2つの手段によって受験生、保護者、進路指導教員を対象に行う。

(1) オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問

高校訪問及び年間を通じてのオープンキャンパス等を従来通り実施するのに加え、「ノートルダム出前ガイダンス・模擬授業プラン」を企画する。さらに夢ナビライブ2016として、大阪会場における「講義ライブ」「大学説明会」「まなびステーション」にも参加する。

また高校訪問については、京都府、滋賀県、大阪府を中心に重点地域、重点校を選び、今まで入学の実績がなかった高校にも本学の特色を伝え、従来以上の入学者の獲得をめざす。

(2) メディアによる広報活動

大学案内やパンフレットの作成、新聞・受験情報誌の掲載、公共交通機関広告などの手段によって、新学部・学科の魅力を積極的にアピールする。さらに大学のホームページによって、具体的に教育内容等の詳細を掲載し、広報を行う。

2) 入試制度の見直し

AO入試の改革

本学のAO入試は、新学部のアドミッションポリシーに基づき、育成型入試の要素を取り入れ、明確な入学動機をもつ学生の入学を期待する。

3) その他

学部改組は外向けの発信のみならず、教職員全員が教育内容等を把握し、一丸となってPR活動できるよう「京都ノートルダム女子大学現代人間学部プロジェクト(キャンペーン)」を実施する。その際に使用できるプレゼンテーションブックの制作を進めている。

4) 既設学部(人間文化学部)の学生確保の取組について

人間文化学部英語英文学科、人間文化学科の過去4年間の志願状況等は、以下の表のとおりである。平成29年度には入学定員を英語英文学科80名、人間文化学科50名にそれぞれ変更する。

変更後の定員を充足するために、前述の1)と2)の学生確保の取組を、今回設置する現代人間学部と同様全学的に行い学生確保に結びつける。

一方、入学志願者数、受験者数、合格者数は、変更前の入学定員数を超過していることから、合格者をいかに入学に結びつけるかがカギとなっている。今後は、学科の魅力や教育課程の周知方法等を見直し、入学者確保に取り組む。

人間文化学部英語英文学科・人間文化学科の過去4年間の入学状況

学科	項目	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平均
英語英文学科	入学定員	110	110	110	110	-
	志願者数	128	161	236	138	165
	受験者数	117	153	228	135	158
	合格者数	112	128	118	124	120
	入学者数	67	68	103	62	75
	超過率	0.60	0.61	0.93	0.56	0.67
人間文化学科	入学定員	60	60	60	60	-
	志願者数	81	97	100	91	92
	受験者数	77	95	96	89	89
	合格者数	73	76	86	78	78
	入学者数	43	35	47	42	41
	超過率	0.71	0.58	0.78	0.70	0.68

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

ア 養成する人材

本学では目指すべき人材像、卒業までに育てたい力（ND6）ディプロマポリシー（学位授与方針）とし以下のとおり定めている。

ND6とは、全学に共通する「育てたい力」について、卒業（学位授与）時に身につけておくべき力（ラーニング・アウトカム）として、学位授与方針に対応する次の6つの力「ND6」（DP（ディプロマポリシー）1～DP6）としている。

キリスト教精神・女性教育	DP1：自分を育てる力
知識・理解	DP2：知識・理解力
汎用的技能	DP3：語学力 DP4：思考・解決力
態度・志向性	DP5：共生・協働する力
統合的な学習経験と総合的思考力	DP6：創造・発信力

現代人間学部の及び各学科（福祉生活デザイン学科，心理学科，こども教育学科）の目指すべき人材像，4年間で育てたい力（ND6）ディプロマポリシー（学位授与方針）は別に記している（別紙7）。

イ 教育研究上の目的

1. 現代人間学部

(1) 教育上の目的

深い人間理解と幅広い知識、そして実学的専門性を兼ね備え、一人ひとりの生活の質（QOL）を高めながら、安全・安心そして健康に暮らせる幸福な社会の実現に貢献できる女性人材の育成を教育上の目的としている。

子ども、高齢者、身体的障がいや心の病を抱えた人、あるいは生活困難を抱えた人たちなど、種々の立場や境遇の人たちの存在を認識し、その人たちの生の諸相や潜在する課題、内面の心理を理解することにより、多様な他者への共感と尊重の精神を養成する。さらに、生活科学、社会福祉学、心理学、教育学など、本学部が内包する諸分野の知見や知識、技術の修得と、多様な人々への関わりを通じて、自己の専門性を活かし社会で活躍するための実践的行動力や、他者との会話や交感により協働する力を醸成する。

(2) 研究上の目的

現代人間学部が研究対象とする中心的な学問分野は、「生活科学」「社会福祉学」「心理学」「教育学」「保育学」とする。個々の分野において、人間とその生活に関わる諸問題の検証と評価、提案に関わる研究は当然のことながら、分野の枠を超えた連携研究、学際的研究に取り組む。

本学部が保有するすべての分野に関わる事として、人間の生涯発達とそれを支える物的条件や教育、制度等の社会的条件の検証、分析、提案を目的とする研究により、生涯を通じた人間の成長と幸福に寄与することを目指す。

2. 福祉生活デザイン学科

(1) 教育上の目的

多様な世代や立場の人たちの生活の諸相や課題、価値観や志向性などについて理解を深めたいうえで、望ましい生活のあり方を考え、提案し、実践していくための基礎的知識や技能を修得させる。これからの暮らしは、個人の尊厳と自由を基盤に、福祉支援の観点を当然のこととして内包したものになると考える。そのような暮らしの提案や実現においては、生活全般とそれを支える社会福祉を広く学ぶ必要がある。本学科では、生活科学と社会福祉学の考え方や知識、技能・技術を幅広く修得させることにより、多様な世代や立場の暮らしのあり方について、衣食住に関わる新たな提案、家庭経営や消費生活における課題の調整などのライフデザイン、さらに福祉支援や対人援助などにおいて、活躍する人材を養成する。

(2) 研究上の目的

福祉生活デザイン学科としての研究上の目的は、社会の大きな転換に向けた生活の再構築に貢献することである。上記の研究テーマのフィールドを大学近辺の学区や住宅地、地域組織におき、研究を通して地元地域との交流、連携を深め地域に貢献することを意図するものである。

とりわけ、地域との関係を視野に入れた「ライフデザイン」研究は、いずれも本学科が内包する生活科学や社会福祉学の諸分野に関わる研究テーマであることから、関係分野の学科教員及び大学

院生を含み全学教員を交え学際的共同研究を行う。

3. 心理学科

(1) 教育上の目的

心理学に基づく科学的分析と深い人間理解により、多様化・複雑化する現代社会が抱える諸問題を広い視野から解決へと導くことができる人材を養成する。すなわち、カトリック精神に基づき豊かな人間性と奉仕の精神を養い、心理学の専門知識と技能を修得し、社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる人材を養成する。そのため、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、多様な価値観や文化的背景をもつ人々とコミュニケーションを図り、理解を深め、協働することができる実践力を身につけさせる。また、情報化・グローバル化の進展、少子高齢化、価値の多様化など現代社会が急激な変化のなかで直面している課題に取り組むため、人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考を修得させ、人間や社会・集団に対する洞察力を養う。さらに、得られた分析結果から、新たな価値を創造する力、心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけさせる。

(2) 研究上の目的

心理学科では、子どもから青年そして高齢者へと至る生涯発達の視点や年齢・性別・個々人の特性による認知の差への理解などをもとに、現代を生きる人間の心理と行動を俯瞰的、実証的に分析し、子どもから高齢者、そして障害者（児）、病者（児）など誰にとっても暮らしやすい社会の実現を目指している。そこで、「臨床心理学」「社会心理学」「発達心理学」「認知心理学」「青年心理学」などを中心とした心理学の学問分野の研究を通して、他者理解やコミュニケーションの促進、有効な対人援助法の開発などを進めていく。すなわち、いじめや虐待、暴力、社会的排除、家族や地域機能の低下、ワーク・ライフ・コンフリクトなど現代的課題を研究者のみならず地域住民や学生も巻き込むことにより実践的に解決へと導く。

4. こども教育学科

(1) 教育上の目的

教育学、保育学、社会福祉学の観点から教育に生き甲斐を持って従事できる人材を育成する。具体的には、カトリック精神である豊かな人間性と奉仕の精神に基づき、「確かな学力」に結びつく学習の指導力と「確かな人間力」をつける生活の指導力を持ち、教育の理想を追い求めることのできる教育者と保育人材の養成である。「確かな学力」と「確かな人間力」を育むことができる「確かな指導力」と「確かな保育力」を持った人材を、社会に輩出する。本学科では、学生に現場とのつながりを常に意識することを促し、教育理論とフィールド実践の往来を通して、教育・保育に必要な実践的な知識と技術の修得をめざす。

(2) 研究上の目的

研究対象とする学問的分野は、「教育学」「保育学」「社会福祉学」である。

教育学分野においては、どのような学びが「確かな学力」と「確かな人間力」を育むことができ

るのか具体的に研究する。

保育学分野においては、どのような学びが子供の育ちを総合的に支え、良好な人間力つまり人間関係形成力を育むことができるのかを研究上の目的とする。

社会福祉学においては、個々の障害に応じて適切な配慮を行いながら、「確かな学力」や人間関係形成力を育むかが研究上の目的となる。

②人材養成目的等が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学部に対する社会的ニーズを客観的かつ定量的に把握するため、次のような調査を行った。

新学部設置需要調査（企業等対象）（資料2）

調査目的

京都ノートルダム女子大学 新学部「現代人間学部」の設置構想に関し、周辺エリア所在の企業に「新設学部の魅力的特徴」「新設学部卒業生の採用意向」を聴取し、下記について把握する。

- ①新学部設立を前提として、学生の卒業後就職決定の見通し
- ②新学部募集の詳細計画策定のため、学部・学科コンセプトの魅力度・差別性を分析

調査対象

近畿地方（2府4県）を中心に全国34都道府県にある企業等1,005事業所

調査方法

京都ノートルダム女子大学にて、過去5年間の採用実績のある企業等のみを選定し、調査票を送付、郵送回収

有効回収

24都道府県・286事業所（回収率29.2%）

調査期間

2015年11月30日（月）～2016年1月12日（火）

※開始日は調査票発送開始日、終了日は回収締切日

集計・分析

株式会社アンド・ディ

本学部卒業生に対する企業の採用意向を確認するために、外部機関（株式会社アンド・ディ）にアンケート調査を委託した。

平成27年11月から平成28年1月まで、一般企業や事業所等1,005箇所に本学部についてのリーフレット及びアンケート用紙を送付し、アンケート用紙に記入する方法により実施した。

調査結果は次の通りである。回答のあった286事業所（回収率29.2%）のうち、本学部卒業生の採用意向について「採用対象になる」62%、「おそらく対象になる」「検討対象」まで含めた「採用検討対象」は88.1%となり、約9割の事業所が本学部の卒業生に対し採用の意向を示している。

「現代人間学部」で学んだ学生の新卒採用意向企業数			
	採用検討対象	252件	調査協力企業全体の88.1%
	採用対象	223件	全体の78.0%
	+検討してもよい	29件	全体の10.1%
「福祉生活デザイン学科」で学んだ学生の新卒採用意向企業数			
	採用検討対象	196件	調査協力企業全体の68.5%
	採用対象	166件	全体の58.0%
	+検討してもよい	30件	全体の10.5%
「心理学科」で学んだ学生の新卒採用意向企業数			
	採用検討対象	199件	調査協力企業全体の69.6%
	採用対象	157件	全体の54.9%
	+検討してもよい	42件	全体の14.7%
「こども教育学科」で学んだ学生の新卒採用意向企業数			
	採用検討対象	217件	調査協力企業全体の75.9%
	採用対象	172件	全体の60.1%
	+検討してもよい	45件	全体の15.7%

各事業所は現代人間学部及び各学科の特徴を以下の点を魅力的と回答している。

1. 現代人間学部

- ①3つの学科が密接に関係しあうことで、生活、福祉、教育、心理を総合的に学び、時代のさまざまなニーズに対応できる実践力を養うこと(84%)
- ②将来に直結する資格取得や知識・技能を身につける環境であること(82%)

2. 福祉生活デザイン学科

- ①生活の視点、福祉の視点、心理の視点が身につくこと(78%)
- ②将来のめざす進路に合わせて3つのコースが用意されること(70%)

採用検討意向があると回答した144社の採用想定人数は計336人であり、一事業所あたり平均2.33人であった。

3. 心理学科

- ①社会やビジネスで活かせる心理学科を学べること(75%)

採用検討意向があると回答した139社の採用想定人数は計271人であり、一事業所あたり平均1.95人であった。

4. こども教育学科

- ①特別支援学校教諭一種免許状が取得できること(52%)

採用検討意向があると回答した160社の採用想定人数は計347人であり、一事業所あたり平均2.17人であった。

上記の事業所に対する採用想定人数は検討意向総数を集計すると、約954名の回答を得た。以上の調査結果から判断し、調査対象企業のみで定員の240名を超える有望な回答を得ており、本学部の理念目的等を理解いただいている事業所は数多くあると言える。また今回は、過去5年間の採用実績のある企業のみを対象としており、さらに回答いただいていない事業所も719箇所あることも考慮すると、本学卒業生の就職先については懸念がないものとする。

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部

目指すべき人材像, 4年間で育てたい力 (ND6) ディプロマポリシー (学位授与方針)

【現代人間学部】

目指すべき人材像	4年間で育てたい力 (ND6)		ディプロマポリシー (学位授与方針)
キリスト教精神に基づいて、他者と自分を尊び、全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した健康な女性	キリスト教精神・女性教育	DP 1. 自分を育てる力	キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに、教育者として、職業的役割を自覚し、子どもの教育に貢献できる態度を身につけている。
人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけ、新たな理解を行い、自己涵養に努める女性	知識・理解	DP 2. 知識・理解力	教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
グローバル化の時代に対応し、外国語および日本語で、国籍や言語の異なる人々とも円滑にコミュニケーションを行うスキルや外国語を読み書きできる力を身につけた女性	汎用的技能	DP 3. 言語力	教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としない子どもや家庭に対して、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
現代社会のさまざまな課題に対して、知識や現象を分析し、適切な情報処理を行って、批判的、論理的に思考し、問題解決を行う力を身につけた女性		DP 4. 思考・解決力	教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
他者に心を開き、社会で不利な立場におかれた人々を含む、さまざまな人々と共生・協働する力を身につけ、すべての人が幸せに生きていくことに貢献する力を身につけた女性	態度・志向性	DP 5. 共生・協働する力	教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよい子どもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信する女性。また、専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信する女性	統合的な学修経験と総合的思考力	DP 6. 創造・発信力	教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

【現代人間学部 福祉生活デザイン学科】

目指すべき人材像	4年間で育てたい力 (ND6)		ディプロマポリシー（学位授与方針）	
キリスト教精神に基づいて、他者と自分を尊び、全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した健康な女性	キリスト教精神・女性教育	DP1. 自分を育てる力	自己研鑽への態度	より良い生活や地域社会の実現に貢献するため、自己研鑽に努めることができる。
			キャリア形成意欲	職業生活や家庭生活、個人の生活を総合的にとらえ、ワークライフバランスを実現して充実した人生を築いていく力を身につけている。
人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけ、新たな理解を行い、自己涵養に努める女性	知識・理解	DP2. 知識・理解力	知識・技能の習得	衣食住や家族、福祉に関する幅広い知識・技能を身につけている。
			課題認識と理解力	家族や個人の暮らしに潜在する課題を理解し、社会的対応の必要性を認識できる。
グローバル化の時代に対応し、外国語および日本語で、国籍や言語の異なる人々とも円滑にコミュニケーションを行うスキルや外国語を読み書きできる力を身につけた女性	汎用的技能	DP3. 言語力	言語活用力(コミュニケーション力)	相手の立場を考えながら、場に応じて適切なコミュニケーションができる力を身につけている。
現代社会のさまざまな課題に対して、知識や現象を分析し、適切な情報処理を行って、批判的、論理的に思考し、問題解決を行う力を身につけた女性			DP4. 思考・解決力	クリティカルシンキング
他者に心を開き、社会で不利な立場におかれた人々を含む、さまざまな人々と共生・協働する力を身につけ、すべての人が幸せに生きていくことに貢献する力を身につけた女性	態度・志向性	DP5. 共生・協働する力	共感する力	他者に共感でき、生活困窮者に寄り添う態度が身につけている。
			協働する力	地域や福祉の現場で他職種と協同しながらかわる支援者としての技術を身につけている。
総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信する女性。また、専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信する女性	統合的な学修経験と総合的思考力	DP6. 創造・発信力	情報収集・発信力	自他の課題解決のための情報収集ができ、必要に応じて発信やプレゼンテーションができる。
			創造力	身につけた知識や技術を活用し、生活をめぐる新たなこと、物を作り出していく力を身につけている。

【現代人間学部 心理学科】

目指すべき人材像	4年間で育てたい力 (ND6)		ディプロマポリシー（学位授与方針）
キリスト教精神に基づいて、他者と自分を尊び、全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した健康な女性	キリスト教精神・女性教育	DP1. 自分を育てる力	キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけ、新たな理解を行い、自己涵養に努める女性	知識・理解	DP2. 知識・理解力	心理学およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
グローバル化の時代に対応し、外国語および日本語で、国籍や言語の異なる人々とも円滑にコミュニケーションを行うスキルや外国語を読み書きできる力を身につけた女性	汎用的技能	DP3. 言語力	多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
現代社会のさまざまな課題に対して、知識や現象を分析し、適切な情報処理を行って、批判的、論理的に思考し、問題解決を行う力を身につけた女性		DP4. 思考・解決力	現代社会のさまざまな課題に対して、人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
他者に心を開き、社会で不利な立場におかれた人々を含む、さまざまな人々と共生・協働する力を身につけ、すべての人が幸せに生きていくことに貢献する力を身につけた女性	態度・志向性	DP5. 共生・協働する力	一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、病児・者、障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り、理解を深め、協働することができる実践力を身につけている。
総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信する女性。また、専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信する女性	統合的な学修経験と総合的思考力	DP6. 創造・発信力	専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力、および心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部 こども教育学科】

目指すべき人材像	4年間で育てたい力 (ND6)		ディプロマポリシー（学位授与方針）
キリスト教精神に基づいて、他者と自分を尊び、全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した健康な女性	キリスト教精神・ 女性教育	DP1. 自分を育てる力	キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに、教育者として、職業的役割を自覚し、子どもの教育に貢献できる態度を身につけている。
人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけ、新たな理解を行い、自己涵養に努める女性	知識・理解	DP2. 知識・理解力	教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
グローバル化の時代に対応し、外国語および日本語で、国籍や言語の異なる人々とも円滑にコミュニケーションを行うスキルや外国語を読み書きできる力を身につけた女性	汎用的技能	DP3. 言語力	教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としない子どもや家庭に対して、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
現代社会のさまざまな課題に対して、知識や現象を分析し、適切な情報処理を行って、批判的、論理的に思考し、問題解決を行う力を身につけた女性		DP4. 思考・解決力	教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
他者に心を開き、社会で不利な立場におかれた人々を含む、さまざまな人々と共生・協働する力を身につけ、すべての人が幸せに生きていくことに貢献する力を身につけた女性	態度・志向性	DP5. 共生・協働する力	教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよい子どもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信する女性。また、専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信する女性	統合的な学修経験と総合的思考力	DP6. 創造・発信力	教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。